

会 報

平成3年度大会

平成3年度大会は、去る11月6日から8日までの3日間広島国際会議場（広島市中区中島町1-5）で6会場にわかれて472題の研究発表が行われた。すなわち生物化学工学、環境浄化、微生物、代謝・生理、醸造、食品、動物細胞培養、植物細胞培養、酵素および酵素工学、醸酵生産および英語セッションの一般講演と、いま酵母が面白い—真核生物モデルとしての研究—、醸造原料と酒類の品質および糖質の構造・機能およびバイオテクノロジーの各シンポジウムならびに鮎バイオインダストリー協会との嫌気と応用微生物のシンポジウムを共催した。

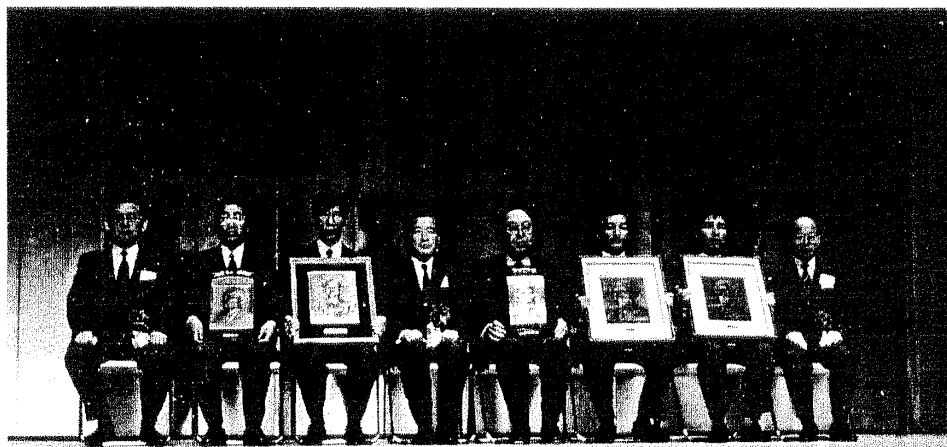
大会第1日目は、午前9時30分からフェニックスホールにおいて授賞式、醸酵工学賞受賞講演および招待講演が行われた。

授賞式は永井会長の挨拶に続いて永井史郎委員から

江田賞の椎木 敏氏について、今中 宏委員から斎藤賞の根来誠司氏について、小林 猛委員から塩谷捨明氏・野村善幸氏について、および永井史郎委員から醸酵工学賞の山田秀明氏についてそれぞれ授賞選考経過ならびに業績報告があり、受賞者に賞状、賞牌、副賞（金一封）が贈呈された。

大会第2日目は、シンポジウム、一般講演につづいて午後6時半から全日空ホテルにおいて400余名参加の懇親会が盛大に行われた。

大会第3日目は、シンポジウム、一般講演および臨時総会が開催された。臨時総会では永井会長が議長となり創立70周年記念事業を計画通り行うことが決定されたほか、学会名称変更について名称変更検討委員会の検討経過、会員によるアンケート結果および文部省との折衝経過について報告された。



受賞者：写真左から 今中副会長、椎木 敏氏、根来誠司氏、永井会長、山田秀明氏、野村善幸氏、塩谷捨明氏、小林副会長

臨時総会 議 事 録

1. 日 時 平成3年11月8日（金）13時～13時40分
2. 場 所 広島国際会議場 フェニックスホール
（広島市中区中島町1-5）
3. 出席者 永井史郎会長以下1042名（内委任状973名）定足数514名（正会員数 2569名）
新名惇彦理事は、定足数514名に対し、出席者数と

委任状の合計が1042名であると報告して、本臨時総会の成立を確認の上、開会を宣した。

なお、定款第30条の規程により、議長選出を諮ったところ、永井史郎会長が議長に指名された。

永井会長は挨拶に続いて、議事録署名人に大嶋泰治氏、新名惇彦氏を選任して議事に入った。

第1号議事 創立70周年記念事業に関する件

永井史郎会長は、70周年記念事業の趣旨を説明して事業に要する費用を会員の会費約1年分相当額および関連の団体・協会などへ寄付募金の依頼と事業への協力をお願いした。また、事業の具体案ならびに予算等については各記念事業担当から次のごとく説明があった。

- 1) 記念講演会：谷 吉樹理事は、平成4年11月16日（月）14時30分から記念式典、記念講演会および祝賀会を開催する予定であると報告した。

- 2) 記念出版：室岡義勝理事は、「生物工学実験書」を醸酵工学会誌の別冊として刊行し、寄付募金者には1冊贈呈する計画であることを報告した。
- 3) 技術賞の新設：今中 宏副会長は、技術賞基金を設けそれを基に発酵工学の技術的進歩・奨励賞として年1件程度を授与すること、およびその資金調達は関連団体・協会にお願いする予定であると報告した。

議長は以上の説明に対し意見を求めたところ意義なく、改めて事業遂行に賛同の方の挙手を求めたところ挙手多数により事業計画通り決定した。

第2号議事 その他

永井史郎会長は、平成2年度第2回理事会で学会名称変更検討委員会の設置を決定してから今日まで、文部省担当官との折衝、名称変更検討委員会の検討経過および会員によるアンケート結果について報告した。

平成3年度第1回 編集委員会 議事録

日 時 平成3年11月6日（水）12時～13時

場 所 広島国際会議場 会議運営事務室 B（広島市中区中島町1-5）

出席者 永井史郎・今中 宏・小林 猛・天知輝夫
飯島信司・今中忠行・加藤滋雄・北本勝ひこ
児玉 徹・塩谷捨明・清水 昌・正田 誠
田中秀夫・田中渥夫・戸田 清・原島 俊
室岡義勝

1. 報告事項

担当理事から下記事項が配布資料をもとに報告された。

- 1) 醸酵工学会誌（田中渥夫理事）
 - ・平成3年度上半期の和文誌の原稿受付状況および投稿数と掲載数

- 2) Journal of Fermentation and Bioengineering（今中忠行理事）

- ・平成3年度上半期の英文誌の原稿受付状況および投稿数と掲載数

2. 議 題

- 1) トピックス委員の委嘱について

- ・平成4年度のトピックス幹事・委員を配布資料の通り承認し委嘱することにした。

- 2) その他

- (1)和文誌を将来月刊にすることについて検討課題とすることにした。

- (2)投稿論文における菌株、培地の取扱方法等について今後検討することにした。

平成3年度第4回 理事会 議事録

日 時 平成3年11月7日（木）13時～14時

場 所 広島国際会議場 会議運営事務室 B（広島市中区中島町1-5）

出席者 永井史郎・今中 宏・小林 猛・天知輝夫

今中忠行・石崎文彬・児玉 徹・新名惇彦
鈴木智雄・菅 健一・*田中渥夫・谷 吉樹
*都河龍一郎・富田房男・土佐哲也・戸田 清
中村以正・西谷尚道・古屋 晃・室岡義勝

監 事 *布川弥太郎・山田靖宙

*印 委任状

1. 報告事項

担当理事から下記事項が配布資料をもとに報告された。

1) 庶務関係（新名惇彦理事）

平成3年度上半期事業報告、総会・理事会・評議員会等の会議開催状況および会員異動状況について報告した。

2) 編集関係（今中忠行理事）

平成3年度上半期の英文誌および和文誌の原稿受付状況ならびに投稿数と掲載数について報告した。また、昨日開催された編集委員会で決定された事項について下記の通り報告した。

(1)平成4年度のトピックス幹事・委員を選出したこと。

(2)和文誌を将来月刊にすることについて検討課題とすること。

(3)論文投稿における菌株、培地の取扱方法等について今後検討すること

3) 会計関係（土佐哲也理事）

平成3年度上半期の収入および支出について報告した。

2. 議 題

1) 前回議事録の承認について

配布資料の通り承認した。

2) 新入会員の承認について

配布資料の通り正会員119名、学生会員136名、団体会員7社および賛助会員3社からの入会申請を承認した。

3) 70周年記念事業計画案の承認について

(1)記念講演会について谷 吉樹理事は、配布資料にもとづいて説明した。

(2)記念出版について室岡義勝理事は、配布資料にもとづいて説明した。

(3)技術賞の新設について今中 宏副会長は、配布資料にもとづいて説明した。

永井会長は、上記3つの事業計画案について資金計画および資金調達の概要を説明し各位に協力を要請した。また、役員および一部の評議員からなる記念事業実行委員への就任要請ならびに記念事業の執行について協力をお願いした。

上記の説明にもとづいて、記念事業遂行に賛成の方の挙手を求めたところ全員賛成したので、計画通り実行することを決定した。

4. 学会の名称変更について

永井会長は、平成3年度第2回理事会で学会名称変更検討委員会の設置を決定してから今日まで、文部省担当官との折衝ならびに学会名称変更検討委員会の経過について報告した。また、名称変更に関するアンケート集計結果ならびに新名称についての意見等を披露した。なお、文部省との折衝は粘り強く交渉するつもりであるとのべた。

平成3年度第2回 評議員会 議事録

日 時 平成3年11月8日（金）12時～13時

場 所 広島国際会議場 会議運営事務室B（広島市中区中島町1-5）

出席者 荒井基夫・*後藤昭二・藤尾雄策・*長谷川徹原 昌道・*橋本直樹・*橋本 勉・*林田晋策・*檜作 進・掘越弘毅・福田秀雄・*伊崎和夫・石川 尊・伊藤昌雄・*貝沼圭二・*軽部征夫・*小崎吉久・木村 光・*栗山一秀・*越野昌平・川原田肇・倉石 衍・松本浩一・*三浦喜温・*野田泰夫・中西一弘・*中桐義隆・岡本六郎・岡本暉公彦・大林 晃・大石邦夫・大井 進・大嶋泰治・*岡崎尚良・岡崎光雄・萩野重男

坂口健二・*新家 龍・左右田健次・*嶋谷幸雄・正田 誠・*杉山晋一・高橋穰二・竹村成三・田野達男・*高岡祥夫・徳山 泰・*柄倉辰六郎・*富永嘉男・辻阪好夫・辻 謙次・藪内精三・山根恒夫・*山崎光郎・*山崎真狩・*山本修司・*山本武彦・*山田秀明・山県民敏・*吉沢 淑

監 事 布川弥太郎・山田靖宙

陪席者 永井史郎・今中 宏・小林 猛・今中忠行・新名惇彦・菅 健一・谷 吉樹・室岡義勝

*印 委任状

黒木事務局長は評議員の定足数（30名）を確認（評議員総数60名、出席評議員31、委任状19）し、定款第

26条の規定にもとづいて議長の選出を諮った。その結果、大嶋泰治氏が議長に選出され、議事録署名人に福田秀雄、新名惇彦の両氏を選定して、議事に入った。

1. 報告事項

議長の指名により担当理事から下記事項が配布資料をもとに説明、報告された。

1) 庶務関係（新名惇彦理事）

平成3年度上半期事業報告、総会・理事会・評議員会等の会議開催状況および会員の異動状況について報告した。

2) 編集関係（今中忠行理事）

平成3年度上半期の英文誌および和文誌の原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告した。

3) 会計関係（菅 健一理事）

平成3年度上半期の収入および支出の状況について報告した。

4) その他

(1)今中編集担当理事は、11月6日開催された編集委員会の会議内容を次のように報告した。

- ・平成4年度のトピックス幹事および委員を選出したこと。
- ・和文誌を将来月刊にすることを検討課題とすること。
- ・論文投稿における菌株、培地の取扱方法等について今後検討すること。

(2)新名庶務担当理事は、11月7日開催された理事会の会議内容を次のように報告した。

- ・正会員119名、学生会員136名、団体会員7件および賛助会員3社からの新入会申請を

承認したこと。

- ・70周年記念事業計画が計画案通り承認されたこと。
- ・学会名称変更の問題点およびアンケート結果が報告されたこと。

2. 議 題

1) 70周年記念事業計画案の承認について

(1)記念講演会について谷 吉樹理事は配布資料にもとづいて説明した。

(2)記念出版について室岡義勝理事は配布資料にもとづいて説明した。

(3)技術賞の新設について今中 宏副会長は配布資料にもとづいて説明した。

永井会長は、上記3つの記念事業についてその資金計画および資金調達の概要を説明し各位に協力を要請した。また、役員および一部の評議員からなる記念事業実行委員への就任要請ならびに記念事業の執行について協力をお願いした。

上記説明にもとづいて、記念事業遂行に賛成の方の挙手を求めたところ全員賛成したので、事業計画案通り実行することを決定した。

3. 学会の名称変更について

永井会長は、平成3年度第2回理事会で学会名称変更検討委員会の設置を決定してから今日まで、文部省担当官との折衝ならびに学会名称変更検討委員会の経過について報告した。また、名称変更に関するアンケート集計結果ならびに新名称についての意見等を披露した。なお、文部省との折衝は粘り強く交渉するつもりであるとのべた。

学会名称変更に関するアンケート結果

本会は今年創立70周年を迎えますが、活動分野も拡大し、会員数も着実に増加を続けております。既に本誌(第69巻, 第5号), 昨年の年次大会(広島)での臨時総会等で報告しておりますように、会名の変更が一昨年11月の理事会で議題に上り、昨年6月の理事会にて「名称変更検討委員会」が設立されました。当委員会で数度にわたる綿密な討議の結果、名称変更は会員の総意にもとづいて行われるべきであるとの観点から、ご存じの通り、昨年9月に「学会名称変更に関するアンケート」を全正会員にお願い致しました。締切まで1ヵ月しかありませんでしたが約4割の会員から回答をいただきました。ここにその集計結果を報告します。

名称変更に関するアンケート集計結果

調査総数：2534

回答総数：1001

内 容	回答数	割 合
1. 名称変更について		
a. 変更すべきである	178	17.8%
b. 変更した方がよい	600	60.0
c. 変更しない方がよい	103	10.2
d. 変更すべきでない	37	3.7
e. どちらでもよい	83	8.3
2. 変更する場合の名称		
日本生物工学会	440	51.6%
日本応用生物学会	91	10.7
日本応用生物工学会	285	33.4
そ の 他	37	4.3

また、多数の会員から、以下のような貴重なご意見をいただきました。

1. 名称変更についての反対意見

- ☆「醗酵」には伝統、特徴、愛着、独自性がある。 41名
- ☆「生物工学」など大きな名前にすると焦点があいまいになる。あまり大きな学会にするのは反対である。 14
- ☆英文名、英文誌の名称を変更し、和文名称は存続させるのがよい。 9
- ☆今、候補に上がっている名称に「醗酵工学」より良いものが無い。 4
- ☆名前を変えても中身は変わらない。 3
- ☆既に知名度が高く、少々のことでも変更すべきでない。 2
- ☆安易に、時流に流されて変更すべきでない。 2
- ☆時期尚早である。 2

2. 新名称についての意見

- ☆「応用生物工学」は応用と工学が重複している、応用を入れると基礎研究を発表できない、

などで応用を省くべきである.	18名
☆学会英語名, 英文誌名も同時に検討されたい.	14
☆「生物工学」は人間の生体工学的印象を与えるので「微」をつけるべきである.	11
☆農芸化学と区別するため工学を強調されたい.	4
☆日本をとるべきである.	2
☆時間を十分かける.	2
☆醸酵を何らかの形で残す.	1

3. 日本生物工学会, 日本応用生物学会, 日本応用生物工学会, 以外に提案された名称を以下に示します.

日本応用微生物工学会, 日本生物化学工学会, 日本微生物工学会, 日本生物および発酵工学会, 日本発酵および生物工学会, 日本生物工学・発酵工学会, 日本微生物・生物工学会, 生物システム工学会, 日本生物応用工学会, 日本生物生産工学会, バイオテック工学会, 日本バイオプロセス工学会, 日本応用発酵学会, 日本バイオ工学会, 応用生物工学会, 日本微生物化学会

これらの結果をもふまえ, 平成3年11月7日開催の理事会, 11月8日開催の評議員会にて, 全会一致で名称を変更することが承認されました. 新しい名称については, さらに十分な検討を加えたいと思います. 会員各位のご協力とご理解を重ねてお願い致します.

なお, アンケートでは名称変更以外にも貴重な意見が多く寄せられております. 学会誌, 年次大会, および学会の運営に関すること, それぞれを整理し, 事務局は勿論, 担当理事に伝えております.

平成4年1月

学会名称変更検討委員会
委員長 永井史郎

平成3年度日本醸酵工学会大会をふりかえって

平成3年度大会は広島市国際会議場で11月6日から8日までの3日間行われた。広島での初めての本大会とあって色々心配をしたが、幸い天候にもめぐまれ、また講演内容、会議場の新鮮さにも助けられ、例年の大会を大きく上回る1700余名の参加者を得て、ほぼつづがなく終了した。

広島市の中心部平和公園内にある国際会議場は、旧制広島高校出身の丹下建三氏によって設計され、約2年前に建造されたものである。大会準備委員会では1年半前より仮予約をしたが、結果的に大会中日に大ホール（1500名）を他団体が使用することになった。幸い当日は当団体の好意でトラブルもなく本大会を運営することができた。この大ホールの他に、国際会議室ヒマワリ（スクール型式264席＋2階席）、大会議室ダリアⅠ（シアター型式220席）、ダリアⅡ（シアター型式220席）、中会議室コスモスⅠ（シアター型式150席）、コスモスⅡ（シアター型式150席）、および小会議室ラン（シアター型式208席）の6会場を使用した。

大会初日は、日本醸酵工学会各賞授賞式と醸酵工学賞受賞講演（山田秀明先生）と宮地重遠先生（海洋バイオテクノロジー研）による招待講演が行われた。初日の午前中にもかかわらず大ホールにはほぼ千人程度の観客を集めた。

午後から2日半に渡って、シンポジウム23題、一般講演441題が6会場において行われた。これら演題も例年より1割程多くなっている。シンポジウムは連日第一会場ヒマワリで行った。英語セッションも当会場で行ったが、今回初めて使用したオーバーヘッドプロジェクター（OHP）の画面サイズと会場の広さがあわなくて、見えにくいとのご批判があった。シンポジウムはスライドを使用したため特に問題はなく、むしろこの会場はゆったりして聞きごこちが良いとの評判であった。

シンポジウム、「嫌気と応用微生物」「いま、酵母が面白い—真核生物モデルとしての研究」「醸造原料と酒類の品質」および「糖質の構造・機能およびバイオテクノロジー」のいずれも好評で最終日の6時近くまで行われた糖質関連シンポジウムも最後まで満席で活発な質疑がなされていた。

一般講演はすべてOHPで行ったが、特に申し出のあった電顕写真などのスライドも自己操作ということでお引き受けした。OHP使用に関しては計画時から賛否両論あったが、会場の広さに合した機種とOHP作成法、講演方法を配慮すれば、今後もOHPの利点を生かして続ける方が良いという大方の意見であった。主催者側としては、スライドよりもOHPの方がはるかに運営しやすいというのが実感である。一般講演の中で一題程手話による発表があったが、質疑応答もスムーズに行われ、感動を覚えたとの感想も出席者からお聞きした。動物、植物細胞、プロテインエンジニアリング、環境浄化などの演題も増え、従来の醸酵工学のワクの中では収め切れない感じも受けた。

大会2日目の夕刻より近くの全日空ホテルで約420名の出席のもと懇親会が催された。永井会長、広島県知事（代理）、木下祝郎氏のご挨拶の後、広島樽酒の鏡割り、田中広島大学長の乾杯で会は大盛況であった。予想を上回る参加者のため、料理が少し足りなく感じたが、中国5県約280社のご厚意によるお酒の展示と試飲は大好評であった。

最終日の昼時間に、日本醸酵工学会70周年事業計画および学会名称変更にかかわる臨時総会が開かれた。

本年度は広報活動も積極的に行った結果、新聞社からの問い合わせや取材、新聞記事の発表もいくつかあった。同会議場内の展示会も例年になく盛況で、地元の企業からの出展も興をそえた。

以上、広島での初めての開催、OHP使用など慣れないことばかりで不行届きの点も多々あったことと思いますが、まずは大過なく成功裏に終えることができましたのも、講演者、出席者各位、色々とご援助いただきました関係者各位のご協力の賜であり、ここに厚く御礼申し上げます。この広島での大会が、日本醸酵工学会のさらなる発展につながる足がかりとなれば、これ以上の喜びはありません。

大会実行委員長 室岡 義勝

大会庶務幹事 西澤 義矩・西尾 尚道・森永 力・矢野 卓雄